

5. 応急対策時の安全管理

5.1 応急対策時の管理基準値案

◆通行止め基準（暫定案）

下記条件に当てはまる場合には、全面通行止め（緊急車両等も通行不可）とする。但し観測データの蓄積により見直しを行う。

- 条件①：伸縮計で累積する 1.0mm/h 以上（異常値は除く）の変位量を計測した場合
- 条件②：目視及び監視カメラにより異常が確認された場合
- 条件③：現場設置の雨量計で時間雨量が 4mm/h 又は連続雨量が 20mm 超過した場合
- 条件④：震度3以上の地震発生時

◆通行止め解除基準（案）

- 条件①：時間雨量が 0.5mm/h 未満を3時間連続して観測、かつ
- 条件②：監視カメラまたは現地の点検等で安全が確認できた段階かつ
- 条件③：伸縮計の変位量が 1.0mm/h 未満を3時間連続して計測した場合

5. 応急対策時の安全管理

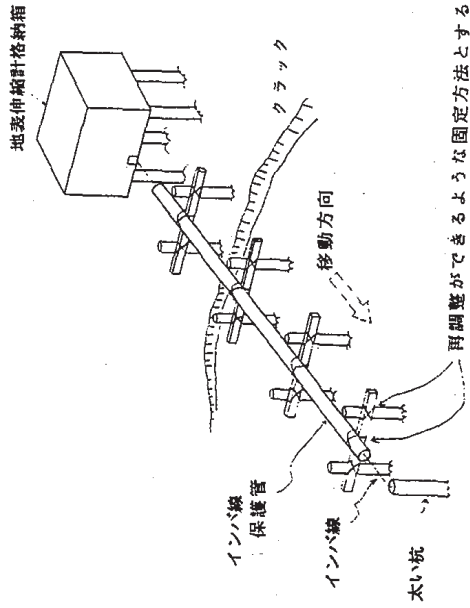
5.2 斜面監視の主な計測器

斜面監視には地盤伸縮計とばらまき型傾斜計を設置する計画である。地すべりの判定基準は下表を用いるが、今回の崩壊に対し安全確保のための基準値はこれらを参考に実績値より判断する計画である。

次頁以降に配置計画・観測結果・管理基準値案を示す。

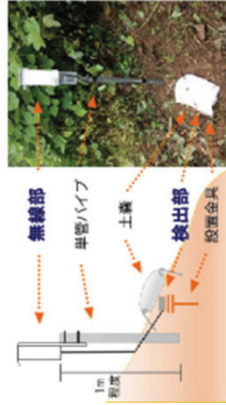
表5.1 地盤伸縮計判定基準

変動種別	日変位量 (mm)	累積変位量 (mm/月)	一定方向への 累積傾向	総合判定	
				変動判定	活動性ほか
変動 A	1 以上	10 以上	顕著	確定	活発に運動中、 表層・深層すべり
" B	0.1~1	2~10	やや顕著	準確定	緩慢に運動中、粘質土・ 崩積土すべり
" C	0.02~0.1	0.5~2	ややあり	潜在	継続観測が必要
" D	0.1 以上	なし (断続変動)	なし	異常	局所的な地盤変動・ その他



再調整ができるような固定方法とする

図5.1 地盤伸縮計一般図



設置用の取付金具 (オプシオン) をご利用しており、容易に設置できます。



図5.2 ばらまき型傾斜計一般図

表5.2 地盤傾斜計判定基準

変動種別	H平均変動量 (秒)	累積変動値 (秒/月)	傾斜量の集積傾向有無	傾斜運動方向と地形との相関性	総合判定	
					変動判定	活動性ほか
変動 A	5 以上	100 以上	顕著	あり	確定	活発に運動中
" B	1~5	20~100	やや顕著	あり	準確定	緩慢に運動中
" C	1 以下	20 以下	ややあり	あり	潜在	継続観測が必要
" D	3 以上	なし (断続変動)	なし	なし	異常	局所的な地盤 変動・その他

※地すべり防止技術指針及び同解説 平成20年 国交省、(独) 土木研究所P29より抜粋

5. 応急対策時の安全管理

5.3 計測器配置計画(案)

崩壊地内の不安定ブロック、その背後の緩み域及び地すべり地形の変動を確認する目的で、パイプ歪計・地盤伸縮計・ばらまき型傾斜計による計測を計画する。

計器配置計画図

